

を行っています。

【求める人材】

医学部では、未来の医療と医学を支える医療人および医学・保健学研究者にふさわしい人として、各学科・専攻で実施される専門教育の学修に必要な基礎学力とコミュニケーション能力を有し、医療人および医学・保健学研究者としての知的探究心と高い志を持ち、入学時点に相応した倫理観と豊かな人間性を備えた人を求めています。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語です。

保健学科

【教育内容・特色】

医学部保健学科には、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3つの専攻がありますが、3専攻に共通して、ヘルスケアの専門家になるべく、医学を包含する保健学について、段階的・体系的・包括的に学びます。そのことを通して、次のような能力の発展・向上を目指します。

- ・人間性に富む医療のための豊かな教養を身につける能力
- ・様々な健康状態にある人々の健康推進のための専門性を習得する能力
- ・健康ニーズに応え、発信する能力
- ・医療・保健に関するリーダーとして行動できる能力
- ・健康的な生活を自己実現する能力

医学部保健学科の教育内容には次の特色があります。

4年間かけて、医療従事者として最も重要な「チーム医療」の理念と実際を体得するための演習や、保健学に関する専門教育科目を多く履修し、各専攻の専門領域の基礎知識を学びます。さらに、本格的に附属病院等で臨地実習を受け、実習と平行して、指導教員毎に研究室に配属され、ゼミナール形式で、研究の基礎を学ぶとともに、教員の指導の下に卒業論文を完成させます。

最終的には、それぞれの専攻が目指す国家資格（看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師等）の国家試験が行われ、基本的には全員が目指す職種の試験を受験することになります。

【求める人材】

1. 高い倫理観と豊かな人間性や感性をもつ人
2. 好奇心にとみ、自由な発想と知的探究心の強い人
3. 自らの課題に主体的に取り組み幅広く学ぶ意欲のある人
4. 他者への共感と洞察力を備え、細やかな心遣いのできる人

入学後の学修に向けて高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力、論理的な思考力と分析力を養ってください。特に、生命や複雑な自然現象を理解するために、総合的な国語力、理科（物理、化学、生物）に関する基礎的な力を身につけてください。

【選抜の基本方針】

・一般入試(前期日程)

高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。大学入試センター試験では5教科7科目、個別学力試験では数学・理科2科目（看護学専攻では理科1科目）及び英語を課し、医療・保健に関する健康科学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。

・一般入試(後期日程)

高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。大学入試センター試験では5教科7科目、個別学力試験では小論文と面接を課し、医療・保健に関する健康科学を学ぶ上で重要な、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。

・専門高校・総合学科卒業生入試

専門高等学校・総合学科卒業レベルの基礎学力を評価します。大学入試センター試験では3～4教科4科目、個別学力試験では小論文と面接を課し、医療・保健に関する健康科学を学ぶ上で重要な、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。また面接では、大学で学ぶ専門領域についての関心と自己表現力を総合的に評価します。

・帰国子女入試

書類審査（調査書・志望理由書等）・学力検査・小論文・面接を課します。書類審査では専門領域についての関心と学習意欲を評価します。学力検査では数学・理科2科目（看護学専攻では理科1科目）を課し、医療・保健に関する健康科学を学ぶ上で基盤となる科目への基礎的学力を評価します。小論文では総合的な基礎知識、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。面接では大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力やコミュニケーション能力など、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。

・社会人入試

書類審査（調査書・志望理由書等）・小論文・面接を課します。書類審査では専門領域についての関心と学習意欲を評価します。小論文では理系・文系に偏らない総合的な基礎学力を重視し、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。面接では、大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力やコミュニケーション能力、理解度など、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を評価します。

・私費外国人留学生特別入試

日本語留学試験を課し、基礎的な日本語能力を評価します。学力検査では数学・理科2科目（看護学専攻では理科1科目）で日本人受験生と同一の試験を課し、基礎的知識、応用力、理解度を評価します。日本語による小論文では総合的な基礎知識、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。面接では大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力やコミュニケーション能力など多面的な質問を行い、医療・保健の専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア入試

書類審査により、成績評価証明書、自己推薦書、評価書を通して、基礎学力、自己表現力、意欲を評価します。また面接では、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を評価します。

・その他(第3年次編入学試験)

書類審査(調査書・志望理由書等)・英語・小論文・面接を課します。書類審査では専門領域についての関心と学習意欲を評価します。筆記試験では英文読解力、小論文により総合的な基礎学力、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。面接では、大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力やコミュニケーション能力、専門分野に関する知識や理解度などを評価します。

5 医学部カリキュラムポリシー

医学部では、本学部ディプロマポリシーに掲げる学士力(人間性に富む豊かな教養、目的につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯に亘る自己実現力)を備えた医療人を育成するため、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。1年次には、外国語、リベラル・アーツ、スポーツなどの全学規模で実施される教養教育に加え、専門教育の基本となる知識や技術について学びます。2年次以降、各学科においてより専門性の高い専門科目を履修するとともに医療機関等における実習が始まり、大学教育としてのカリキュラムの成果は、国家試験の受験に十分耐え得るものとなっています。

6 医学部保健学科カリキュラムポリシー

医学部保健学科は、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3つの専攻があり、授業科目は大きく教養教育科目と専門教育科目に分かれています。科目は、医学部保健学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、体系的に学べる構造で組み立てられています。

1年次には、外国語、リベラル・アーツなどの教養教育科目に加え、医療の基本となる各専攻に共通する知識や技術について学びます。また、これに加えてそれぞれ専門のイントロダクションを学びます。また、医療従事者として最も重要な「チーム医療」の理念と実際を体得するための演習も必修科目となっています。

2年次からは、教養教育科目を学びながら、一方で「講義」や「演習」・「実験」などの専門教育科目をより多く履修し、各専攻の専門領域の基礎知識や技術を学びます。2年次からの「講義」「演習」・「実験」では、能動的学修が多く取り入れられ、課題探究型学習が増えています。

3年次からは、より専門性の高い専門教育科目を履修するとともに、多くの専攻で、本格的に附属病院等で臨地実習が開始されます。

なお、2・3年次のいずれかで、4学期制を活用して留学・インターンシップなど長期間の学外活動にチャレンジできる機会も設けられています。

4年次には、実習と平行して、指導教員毎に研究室に配属され、ゼミナール形式で、研究の基礎を学ぶとともに、教員の指導の下に卒業論文を完成させます。さらに、開講される医療系学部共通科目においては、臨地実習とは視点の異なる医療の最前線や実際を学ぶ機会を

提供し、専門性を高めます。

4年生の後半には、それぞれの専攻が目指す国家資格（看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師等）の国家試験が行われ、基本的には全員が目指す職種の試験を受験することになります。大学教育としてのカリキュラムの成果は、国家試験の受験に十分に耐え得るものになっています。

「人間性に富む医療のための豊かな教養」を涵養するために

- 自然や社会の多様な問題に対して関心を持つ態度を育成するために、自然科学のみならず、豊富な社会科学・人文科学系の教養教育科目の中から多様な科目が受講できます。
- 論理的思考力・判断力・創造力を身につけるため、リベラル・アーツを重視するとともに、情報処理科目も全員が履修できますし、受講が奨励されています。
- 人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけるために、Humanities(人文科学)を重んじるとともに、専門課程において、医療者として相応しい人間性や倫理観を養うことができるような実習を行っています。

「あらゆる人々の健康推進のための専門性」を習得するために

- 患者に限らず、あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるために、医学・保健学に共通する専門教育科目を、主として1・2年次に担当しています。
- 科学の進歩を健康に関わる技術開発や問題解決に活用し、社会に貢献できるようになるために、各専攻の学問分野（看護学、放射線医学、臨床検査医学）の最新成果を学べる専門教育科目を3・4年次に担当するとともに、卒業研究を行う中で、自らがこうした技術開発につながるような専門分野をさらに深めることができるカリキュラムとなっています。

「健康ニーズに応え、発信する情報力」を培うために

- 住民や患者の健康ニーズに応えとともに、自然や社会の情報を多角的に収集・分析する能力を身につけるために、1年次に保健科学入門と情報処理科目が準備されています。また保健統計について学ぶ機会も設けられています。
- 分析した成果を地域や世界に向かって情報発信する能力を培うために、その基礎となる外国語科目を学ぶとともに、IT技術、コンピューター・リテラシーが身につく教養教育科目が準備されています。

「医療・保健に関するリーダーとしての行動力」を身につけるために

- 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力を身につけるために、ガイダンス科目「チーム医療演習」が1年次に担当されており、座学では得られないコミュニケーションの力を涵養します。
- 世界に貢献できる国際感覚や言語力を身につけるために、ネイティブに学べる外国語科目を1・2年次に履修します。また地域住民とのコミュニケーションを図る能力を養える実習科目も一部専攻では準備されています。
- 個人として、また、チームとして時代と社会をリードする行動力を身につけるために、卒業研究に代表される多くの演習科目の中で、スモールグループのリーダーや各種役割を担

う機会が設けられています。

「健康的な生活を追い続ける自己実現力」を育成するために

- 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と文化やスポーツを享受する姿勢を持った医療人として、生涯に亘って学び、楽しみ、自己実現をはかるために、スポーツ実習が用意されています。
- 参加型の実習により、学生が目指す専門職（看護職、臨床検査技師、診療放射線技師等）に身近に接することで、そうした専門職業人が享受している文化やスポーツの一端をロールモデルとして体感でき、自らの生き方の指針とできます。

7 岡山大学医学部ディプロマポリシー

- ・人間性に富む豊かな教養【教養】
医療人として自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かで国際的な教養を身につけている。
- ・目的につながる専門性【専門性】
健康・医療に関する専門的学識と時代を担う技術を身につけ、国際社会に貢献できる。
- ・効果的に活用できる情報力【情報力】
必要に応じて自ら健康・医療に関する情報を収集・分析し、効果的に活用し、グローバルな情報発信できる。
- ・時代と社会をリードする行動力【行動力】
国際的に活躍できる医療人としてのコミュニケーション能力を有し、医療チームの一員として責任を持った行動ができる。
- ・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】
自立した世界に通用する医療人として絶えず医療の質の向上に努め、生涯に亘り自己の成長を追求できる。

8 医学部保健学科ディプロマポリシー

- ・人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】
自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。
- ・あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】
あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、科学の進歩を健康に関わる技術開発や問題解決に活用し、社会に貢献できる。
- ・健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】
住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析すると共に、成果を地域や世界に向かって情報発信する能力を有している。

- 医療・保健に関するリーダーとしての行動力 【行動力】

医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、地域や世界に貢献できる国際感覚や言語力を有し、個人として、また、チームとして時代と社会をリードする行動力を身につけている。

- 健康的な生活を追い続ける自己実現力 【自己実現力】

患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と文化やスポーツを享受する姿勢を持った医療人として、生涯に亘って学び、楽しみ、自己実現がはかれる。

9 大学院保健学研究科3つのポリシー

岡山大学大学院保健学研究科は、医学部保健学科で行われる学部教育に接続する、より高度な教育機関としての面と、広く保健学という学際性の高い学問を学べる開かれた大学院という面の両面を有しています。つまり、学部で学ぶ看護学、放射線技術科学、検査技術科学という各学問領域をさらに深める場である通常の大学院に加えて、医療チームの主要メンバーである看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師等が、より高度な専門性を身につける高度職能大学院としての性格があります。またこれらの個別の学問領域や、職種にとらわれず、保健学というものを学びたい人々のためにも門戸が開かれています。

保健学は、人々の健康保持・増進に役立つ応用科学です。医学と密接に関連していますが、医学よりも広い学問分野です。実践の面でも医療に限らず、保健や福祉も包含した広範な領域が守備範囲となります。そこで保健学研究科では、前期及び後期課程を通じ、一貫して「ヘルスプロモーションの実践と確立」という教育理念を掲げています。この目標理念を達成するために博士前期課程では、高度専門職の育成と、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力の養成を、博士後期課程では保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発等、独立した研究能力をもつ教育・研究者の養成を目指しています。

博士前期課程(2年制)には、看護学、放射線技術科学、及び検査技術科学の3分野があります。看護学分野は、基礎看護学、成育看護学、臨床応用看護学、及びコミュニティヘルス看護学の4領域で、放射線技術科学分野は、医用情報理工学と放射線健康支援科学の2領域で、検査技術科学分野は、病態情報科学と生体情報科学の2領域で構成されています。看護学分野には、高度職能大学院として、がん看護専門看護師(CNS)の養成コースと、助産師の養成コースが含まれています。同じく放射線技術科学分野には、医学物理士の養成コースが含まれています。修了者は修士(保健学)の学位が与えられますが、看護学分野では、定められた科目・単位を修得し、希望すれば修士(看護学)の学位が与えられます。

保健学研究科博士後期課程(3年制)には看護学、放射線技術科学、及び検査技術科学の3分野があります。看護学分野は、基礎看護学、成育看護学、臨床応用看護学、及びコミュニティヘルス看護学の4領域で、放射線技術科学分野は、医用情報理工学と放射線健康支援科学の2領域で、検査技術科学分野は、病態情報科学と生体情報科学の2領域で構成されています。修了者は博士(保健学)の学位が与えられますが、看護学分野では、定められた科目を修得し、希望すれば博士(看護学)の学位が与えられます。

(1) 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

保健学研究科では、以下のような人を求めています。

（博士前期課程）

- 保健・医療の基礎知識と豊かな人間性、優れた感性を持つ人
- 人々の幸福と健康の増進に貢献しようという情熱と気概がある人
- 協調性と柔軟な発想を持ち、将来、チーム医療の中核になれる人
- 保健・医療・福祉、および関連分野の高度の専門知識と技術の修得を目指す人
- 機器・技術・教育プログラムの開発に携わるため、研究の基礎能力の修得を目指す人

（博士後期課程）

- 人間や物事の本質を見抜く感性を持つ人
- 多角的かつ包括的な視点と包容力を持ち、将来、医療・保健チームをリードする素質を持つ人
- 研究の基礎能力と真理への探求心を持ち、ヘルスプロモーション科学の確立を進めていく可能性を持つ人
- 保健・医療・福祉分野の研究者・教育者を目指す人
- 将来保健・医療・福祉の領域で国際的な活動・貢献を目指す人

(2) 教育課程編成と実施の方針（カリキュラムポリシー）

保健学研究科では、多様な専門性を身につけた学生に対して、以下の方針に基づいた教育研究を実施します。

（博士前期課程）

- 研究の基礎能力と保健・医療に携わる者としての素養を育てるために、3分野共通のコア科目を設けています。
- 助産師、がん専門看護師の育成にあたっては高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力を身につくようなコース編成となっています。
- 助産師、がん専門看護師の育成にあたっては岡山大学病院、地域中核病院、および診療所での実習を取り入れて、実践に結び付いた教育を行っています。
- 研究の中間段階で、他の大学院生や教員の質問や意見を参考に自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにしています。

（博士後期課程）

- チーム保健・医療をリードする能力を養うための共通コア科目を設けています。
- 学会発表を義務付け他大学の教員や保健医療機関の職員の質問や意見を理解し、自分の研究の問題点や位置づけができるようにします。
- 他の研究科や他の大学の研究者との交流を通して、自分および他の研究者の研究を広い視点から理解・評価する能力を養えるようにします。
- また、異分野との交流を通して、異分野の叡智をヘルスプロモーション科学の確立に活用できるようにします。

- 国際的視野と英語能力を育てるために、国際学会における英語での発表を奨励します。

(3) 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

保健学研究科では、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

(博士前期課程)

- 保健学の実践を通してヘルスプロモーションの実践に貢献できる。
- 保健・医療チームの中核として全人的な保健・医療を提供できる。
- 研究の基礎能力と探求心を持ち、生涯にわたって自己研鑽できる。
- 社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。
- 高度の専門知識と技術を持ち、保健・医療・福祉の向上に貢献できる。

(博士後期課程)

- 保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える。
- 保健学の実践・教育・研究を通してヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる。
- 保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる。
- 自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる。
- 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応できる。

【 参 考 】

岡山大学管理学則

(大学の目的)

第10条 広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに、学術の深奥を究めて、その成果を広く社会に提供することにより、世界文化の進展に寄与することを目的とする。

(大学院の目的)

第53条 岡山大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的としたものは、専門職大学院とする。